

Press Release

2025 年 7 月吉日

公益財団法人日本オペラ振興会 <https://www.jof.or.jp>

生まれ変わる。全てを捨てて

文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

日本オペラ振興会総監督 郡 愛子
公演監督 斉田正子

G.ヴェルディ作曲

「ラ・トラヴィアータ ～椿姫～」

La Traviata

オペラ全 3 幕 (字幕付き原語 (イタリア語) 上演)



2025 年 9月5日(金)・6 日(土)・7 日(日) 14:00 開演

新国立劇場 オペラパレス

【開場 13:00】＊13:30 から会場内にて作品解説をいたします。※上演時間：約 3 時間（休憩含む）

- 主催：公益財団法人日本オペラ振興会
- 共催：公益財団法人新国立劇場運営財団、公益財団法人東京二期会
- 助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)） | 独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人三菱 UFJ 信託芸術文化財団、公益財団法人花王 芸術・科学財団、公益財団法人朝日新聞文化財団
- 後援：NPO 法人日本ヴェルディ協会、日伊協会、イタリア文化会館

本公演に関するお問い合わせ、および取材のお申込み

公益財団法人日本オペラ振興会 広報担当：外山・堀内

〒215-0035 神奈川県川崎市麻生区黒川 76-1

Tel: 044-819-5505 / E-mail: press@jof.or.jp

今だからこそ観るべき椿姫がここに――
誰かを本気で愛したことのあるあなたへ贈る物語。

世界中で最も愛され続ける名作「ラ・トラヴィアータ ～椿姫～」。2019年に話題を呼んだ栗國淳演出の美しい舞台が、藤原歌劇団・新国立劇場・東京二期会の共演により、待望の再演として蘇ります。指揮には欧州での活躍が目覚ましい阿部加奈子が登場し、東京フィルハーモニー交響楽団を率います。

ヴィオレッタの人生は、あなた自身の記憶とも重なるかもしれません。今だからこそ心に沁みる物語を、極上の音楽とともに楽しみください。

〈ものがたり〉

第1幕

パリのヴィオレッタの館

上流社会の男たちが集うヴィオレッタ・ヴァレリーの豪奢なサロンにはドゥフォール男爵をはじめ、公爵、子爵といった貴族の男たちが集まっている。ガストーネ子爵が、ヴィオレッタに紹介したのは、彼女に憧れるプロヴァンス地方出身の青年アルフレードだった。「乾杯の音頭を」と促されたアルフレードはヴィオレッタへの恋心を歌い、ヴィオレッタは彼をからかうように、酒と快樂の人生を謳歌しようと応じる。「乾杯の歌」



華やいだ雰囲気の中、客たちを食事の席へと案内しようとするヴィオレッタだが、めまいがして座り込んでしまう。心配する客たちを「なんでもないわ。どうぞ先にいらして」と隣室へと送り出した彼女は、肺を病んで青白い自分の顔を見つめる。そこにアルフレードが現れ、彼女への想いを「この宇宙のすべての鼓動のような、神秘的で誇り高く、苦しみと喜びに満ちた恋」と熱く語る。そのまっすぐな熱意にヴィオレッタは心を動かされ、一輪の花を差し出し「この花が枯れたら戻っていらして」と言う。二重唱「ある日、幸せに満ちた天女のような」

明け方が近づき、客たちはヴィオレッタに挨拶をして帰っていく。ひとり残ったヴィオレッタは、アルフレードの言葉を反芻して、純愛への憧れを口にする。しかし次の瞬間、自分の高級娼婦として生きている立場を省みて「いいえ、人生を愉しむのよ！」と自嘲的に語る。大アリア「ああ、おそらくあの人なのね～花から花へ」

第2幕

(第1場) パリ郊外にあるヴィオレッタのパトロンが所有する別荘

ヴィオレッタがパリの社交界から身を引き、アルフレードと暮らし始めて3ヶ月が過ぎようとしている。アルフレードが、ヴィオレッタとの暮らしの幸せを歌う。カヴァティーナ「燃える心を」

そこに旅姿をしたヴィオレッタの召使いアンニーナが戻ってくる。彼女から、この生活を支えるためにヴィオレッタが財産を次々と処分していることを聞いたアルフレードは、そんなことすら気が付かなかった自分を恥じて「お金を工面する」とパリへと出かけていく。カバレッタ「ああなんという後悔」

彼が出掛けたあと、ヴィオレッタが現れてアルフレードがいないのを不審がる。彼女は下男ジュゼッペに「商談のお客様がお見えになったらお通ししてちょうだい」と命じる。パリ時代の友人フローラからのパーティの招待状が届いているのを見つけた彼女は「とうとう私の居場所を見つけたのね。誘ったって無駄なのに」と笑いながら、その招待状を脇のテーブルに置く。

そこにジュゼッペに案内されてひとりの紳士が現れる。ヴィオレッタは彼を、待っていた財産を処分するための商談相手と思って迎え入れるが、それはアルフレードの父、ジェルモンだった。ジェルモンは、息子を高級娼婦から取り戻し、故郷へと連れ帰るためにやって来たのだ。突然のジェルモンの来訪にヴィオレッタは驚く。自分の息子が娼婦にたぶらかされ、財産を使おうとしていると思い込んでいるジェルモンに、ヴィオレッタは自分の財産を売り払っている書類を見せる。ジェルモンは意表を突かれるが、自分の娘の縁談が「兄が娼婦に入れ揚げていることが原因で破談になりそうなのだ」と話し始める。二重唱「天使のような清らかな娘を」

その話を聞いたヴィオレッタは「しばらくの間アルフレードと離れています」と提案するが、ジェルモンは彼女に「息子と永遠に別れてほしい」と言い、「男の気持ちなど移り気なものだ。色香の褪せないうちに、儚い夢を見るのはおやめなさい」と語る。彼女は「自分のような女には幸せは訪れないのだ」と悲しげに呟く。そしてヴィオレッタは、アルフレードとの別れを決心してジェルモンに「強くなるために、私をどうぞ娘のように抱きしめてください」と語る。二重唱「お嬢さんにお伝えください〜どうか娘のように」

ジェルモンが一旦去ったあと、ヴィオレッタが別れの手紙を書いているとアルフレードが戻ってくる。「父から厳しい言葉が並んだ手紙が来た」と語るアルフレードに「ならば私はここにいない方がいいわ。席を外すわね。」と言ってヴィオレッタは彼の元からさりげなく去ろうとするが、感極まって「私があなたを愛するのと同じぐらい、私のことを愛してくださいね」とアルフレードに抱きつき、そして走り去っていく。



彼女の様子に漠然とした不安を抱くアルフレードの元に、パリへと向かったヴィオレッタからの別れの手紙が届く。彼女のあとを追おうとしたアルフレードの前にジェルモンが立ちはだかる。そして、息子に「一緒に家族の待っている故郷に帰ろう」と優しく語りかける。カヴァティーナ「プロヴァンスの海と陸」～カバレッタ「い

や、咎めているのではない」

一度は父の説得に応じそうになったアルフレードだが、テーブルの上にフローラからのパーティの招待状を見つけ、ヴィオレッタが自分を裏切って他の男のところへ行っただと思い込んだ彼は、嫉妬に狂い、父の制止を振り切って飛び出していく。

(第2場) パリのフローラの館で開かれているパーティ

華やかなパーティでは、ジプシーたちが踊りを披露している。客たちが「ヴィオレッタとアルフレードが別れたらしい」と噂しているところに、当のアルフレードがひとりで現れる。一足違いでドゥフォール男爵にエスコートされたヴィオレッタが現れ、アルフレードの姿を認めて、パーティに来たことを後悔する。男爵とアルフレードがポーカーで賭けを始めて、アルフレードが勝ち続ける。食事の用意ができたとの知らせに客たちは食堂に向かう。そのときヴィオレッタはアルフレードに「話があるの」と囁く。皆が去ったあと、ヴィオレッタの前にアルフレードが現れる。ヴィオレッタは彼の身を案じて「すぐにここを去って」と話しかけるが、彼はヴィオレッタが自分を追い払おうとしているに違いないと邪推する。そして人々を呼び戻し「この女は俺のために財産を全部手放した。それを全部このポーカーの儲けで支払ってやる」とヴィオレッタに紙幣を投げつける。ヴィオレッタはショックのあまり倒れ、人々はアルフレードの紳士にあるまじき行為を非難する。そこに息子を追って来たジェルモンも現れ、「お前はもう息子ではない」と息子を叱る。我に返ったアルフレードは後悔するが、すでに遅く、男爵は決闘の申し込みの印として、身につけていた手袋を彼に投げつける。

第3幕

謝肉祭で賑わうパリのヴィオレッタの館

家財道具を売り払いがらんとしたヴィオレッタの館の一室。肺病で余命いくばくもないヴィオレッタがベッドに横たわっている。目を覚ましたヴィオレッタが、うたた寝をしていた召使いのアンニーナに声をかける。外からは謝肉祭を祝う人々の華やいだ声が聞こえてくる。ヴィオレッタの友人で医師のグランヴィルが様子を見にくる。そしてアンニーナに「もってあと数時間だろう」と告げ、「また夕方立ち寄る」と言い残して去っていく。ヴィオレッタはアンニーナに、残り少ないお金を貧しい人々に分け与えるように言い、手紙が来ていないか見て来てほしいと頼む。

ひとり残ったヴィオレッタは、何度も読み返しているジェルモンからの手紙を取り出す。そこには、アルフレードと男爵の決闘で男爵が怪我をしたが、その傷も今は癒えたこと、アルフレードは外国にいるが、あなたに会いに戻ってくると書かれてあった。彼女は「待っても待っても彼は来ないわ」と絶望的になり「私の墓には、十字架も花も捧げられることはないのよ」と語る。アリア「さようなら、過ぎ去った日の美しく楽しい夢よ」



そこにアンニーナが駆け込んで来てアルフレードの来訪を告げる。ふたりは再会を喜び合い、アルフレードはこれまでのことをヴィオレッタに詫び「パリを離れて二人でやり直そう」と語りかける。二重唱「**パリを離れて**」

喜んだヴィオレッタは、教会へ行くと行って着替えようとするが、彼女にはそんな力はもう残っていなかった。彼女は死を覚悟して自分の肖像画の入ったロケットを「あなたに愛する人ができたら、その人に渡してください。あなたを心から愛した女が天国から見守っていると」と言いながら、アルフレードに手渡す。

駆けつけたジェルモンはやつれ果てたヴィオレッタの姿に、自分がしたこと残酷さを後悔し、アンニーナに呼ばれて戻って来たグランヴィルとともに彼女を見守る。

ヴィオレッタは突然立ち上がり「不思議だわ。もう苦しくないわ。もう一度生きられるのよ」と喜びの声を上げるが、その直後その場に崩れ落ち、息絶える。

〈見どころ・聴きどころ〉

ヴィオレッタ (S) 最大の聴かせどころは、第1幕の最後を飾る「ああ、おそらくあの人なのね～花から花へ」の大アリア。しかし、華やかなコロラトゥーラを駆使したこのアリアとは対照的に、音域も低く凝縮した悲しみの表現が求められる第3幕のアリア「さようなら、過ぎ去った日々の美しく楽しい夢よ」も同じソプラノが歌わねばならないところに、ヴィオレッタ役の難しさがあります。**アルフレード (T)** には若々しく、輝かしい声が必須で、第2幕の冒頭でヴィオレッタとの幸せな暮らしを語るカヴァティーナ「燃える心を」と、それに続くヴィオレッタが彼女の財産を売ってこの生活を支えている現実を知ったカバレッタ「ああなんという後悔」が最大の聴かせどころです。洪さが光るアルフレードの父**ジェルモン (Br)** が、息子を故郷に呼び戻そうと語りかける「プロヴァンスの海と陸」もヴェルディ・バリトンを代表するアリアのひとつです。

このオペラは、華やかなアリアばかりが目立ちますが、実は緻密な心理表現が歌手たちに求められる作品でもあります。特に第2幕第1場のほとんどを占めるヴィオレッタとジェルモンの二重唱「天使のような清らかな娘を」は、息子を高級娼婦から取り戻そうとする父と、真実の愛だからこそアルフレードの家族のために身を引くことを決意するヴィオレッタの対峙と動揺、諦観、同情そのすべてが二重唱の中だけで表現されねばならず、歌手たちの実力が試されるところです。

(河野典子)

●チケット好評発売中！

S席 ¥22,000 A席 ¥19,000 B席 ¥16,000 C席 ¥12,000 D席 ¥8,000 E席 ¥4,000 (税込)

・ヤング・フレッシュマンチケット

S席～B席：半額 (25歳以下／枚数限定)

・障がい者割引

S席～B席：20%割引 (要お問い合わせ／枚数限定)

●お問い合わせ・予約

日本オペラ振興会チケットセンター 044-819-5550 (平日 10:00～18:00)

【座席選択可・PC&スマートフォン】 <https://mmct.jcity.com/?c=68&e=nhfARdwvgIdEMBgnTKT%3DQ11>

〈主要キャスト・スタッフプロフィール〉

指揮 阿部加奈子

Kanako ABE

オランダ在住。東京藝術大学音楽学部作曲科を経て、パリ国立高等音楽院にて 作曲に関連する 6つの課程とともに日本人として初めて同音楽院指揮科で学び、フォンティス総合芸術大学大学院指揮科（オランダ）にて修士号を取得。パリ国立高等音楽院在学中より、ヨーロッパを活動の拠点に、指揮者、ピアニスト、作曲家として多方面で活躍する。2005年にはパリ管弦楽団やアンサンブル・アンテルコンタンポラン等のメンバーからなる現代音楽アンサンブル「ミュルチラテラル」を創設、2014年まで音楽監督を務める。また、その間にチューリッヒ歌劇場やモンペリエ国立歌劇場でファビオ・ルイージ、エンリケ・マツォーラ、ロレンス・フォスター等のアシスタントを務める。これまでにギャルド・レピュブリケ管弦楽団、イル・ド・フランス国立管弦楽団、モンペリエ国立管、ロレーヌ国立管など、日本国内では東京フィル、



新日本フィル、兵庫芸術文化センター管などと共演している。2024年1月、藤原歌劇団「ファウスト」公演にて日本オペラ・デビュー。2022年7月に、ブシュラ・エル＝トゥルクのオペラ「Woman at Point Zero」の世界初演でエクサン・プロヴァンス音楽祭、2023年6月にコヴェントガーデン王立歌劇場、2024年5月にウィーン芸術週間に、2025年3月には、ブシュラ・エル＝トゥルクの新作オペラ「OUM」の世界初演でオランダ国立歌劇場にデビューを果たす。

現在、フランス・ドーム交響楽団の芸術監督兼音楽監督、アンサンブル・オロチの創設者兼音楽監督を務める。ハーグ音楽院非常勤講師。大阪市出身。<https://www.kanakoabe.com>

演出 栗國 淳

Jun AGUNI

東京生まれローマ育ち。ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院でヴァイオリンと指揮法を学ぶ。オペラの演技・演出法をM.ゴヴォーニに師事。1998年文化庁派遣芸術家在外研修員。舞台監督集団ザ・スタッフ／田原進氏のもとで学ぶ。

97年藤原歌劇団の「愛の妙薬」で演出家デビュー以降、新国立劇場「セビリアの理髪師」「ラ・ボエーム」「おさん」「フィレンツェの悲劇／ジャンニ・スキッキ」「幸せな間違い」「外套」、東京二期会「仮面舞踏会」、北とぴあ国際音楽祭「オランダ」、サントリー音楽財団創設40周年記念オペラ「パン屋大襲撃」、愛知トリエンナーレ「ホフマン物語」、紀尾井ホールオペラ「オリンピックアデ」、日生劇場「アイナダマール（日本初演）」「セビリアの理髪師」「アラジンと魔法のランプ」、びわ湖ホール・二期会・神奈川県民共同制作「トゥーランドット」「アイダ」「オテロ」、藤原歌劇団「イル・カンピエッロ」「仮面舞踏会」「ファルスタッフ」「ノルマ」「ラ・トラヴィアータ」、日本オペラ協会「キジムナー時を翔ける」（第29回三菱UFJ信託音楽賞受賞）等日本各地で様々な作品を手がける。海外でも多くの作品を手掛け、批評家陣から熱狂的な賛辞を送られている。印象的かつスタイリッシュな舞台を繰り広げながら、そのベースに終始一本の絹糸が通っているかの様に細やかな人物像を描きあげる一方、視覚的にエネルギッシュな演出を手がけるなど、その抜群のセンスは国際的にも評価が高い。



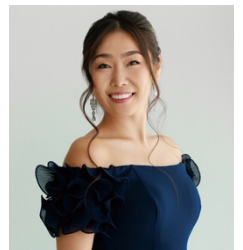
11年度エクソンモービル音楽奨励賞受賞。新国立劇場オペラ研修所演出主任講師。日生劇場芸術参与。

ヴィオレッタ役 (9/5) 迫田美帆

Miho SAKODA

東京藝術大学卒業。2017年、サントリーホール オペラ・アカデミー・アドバンスト・コース第2期修了。第50回日伊声楽コンクール、第13回東京音楽コンクール声楽部門第2位。第86回日本音楽コンクール声楽部門入選。

藤原歌劇団には、19年「蝶々夫人」のタイトルロールで鮮烈なデビューを飾って高評を博し、21年「フィガロの結婚」伯爵夫人、22年「イル・カンピエッロ」のルシエータ、「ゴジ・ファン・トゥッテ」フィオルディリージで好評を得るなど、実力派若手ソプラノとして注目を集めている。また、ベルカントオペラフェスティバル イン ジャパン 2019「貞節の勝利」ではズボン役となるリッカルドを演じた。



近年では、NISSAY OPERA 2021「ラ・ボエーム」（日本語訳詞上演）ミミ、東京文化会館 MusicProgram TOKYO シアター・デビュー・プログラム「ショパン」フローラで出演。ソリストとしては、G.サッパティーニ指揮／「第九」、ロッシーニ「小荘厳ミサ曲」に出演する他、東京フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団の「第九」ソプラノソロを務めるなど各方面で活躍し

ている。2023 年夏には、アメリカ・ジョージア州にて開催されたサバンナ・ボイス・フェスティバルにて「蝶々夫人」で海外デビューを果たした。

24 年 11 月、藤原歌劇団 90 周年記念・NISSAY OPERA 2024 公演「ピーア・デ・トロメイ」のピーアで出演を予定している。

藤原歌劇団団員。東京都出身。アメリカ在住。

ヴィオレッタ役 (9/6) 田中絵里加

Erika TANAKA

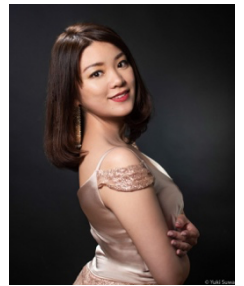
東京音楽大学声楽科演奏家コース卒業。同大学大学院オペラ研究領域修了。ヴェネツィア国立音楽院大学院声楽科首席修了。ラヴェンナ国立音楽院 Master di II livello 現代音楽声楽科首席修了。平成 26 年度文化庁海外研修生、平成 29 年度さわかみオペラ財団奨学生としてミラノスカラ座研修所オペラソリストコース、ボローニャ歌劇場研修所オペラソリストコースで研鑽を積む。第 41 回イタリア声楽コンクール 1 位ミラノ大賞受賞。第 1 回 Opera Live 国際コンクール優勝。ボローニャ歌劇場にて「オリンピアデ」アリスティアに大抜擢されオペラデビューを果たす。同劇場では「椿姫」のタイトルロールをはじめ、「ジャンニ・スキッキ」ラウレッタ、「ドン・パスクァーレ」ノリーナ、「ドン・ジョヴァンニ」ツェルリーナなどを演じる。他にも、ベルガモ・ドニゼッティ劇場、トラーパーニ七月音楽祭、ヴェネツィア・マリブラン劇場、ポテンツァ・フランチェスコスタービレ劇場、マリオデルモナコ劇場、プレーシャ・グランデ劇場など多くの劇場でオペラ出演する。座間市市制施行 50 周年記念「椿姫」にてタイトルロールで日本オペラデビューを果たす。また現代オペラ作品にも数多く出演している。オペラ以外では「カルミナ・ブラーナ」ソプラノソリストとして、フラスキーニ歌劇場、マントヴァ歌劇場、コモ歌劇場で出演。藤原歌劇団団員。千葉県出身。



ヴィオレッタ役 (9/7) 森野美咲

Misaki MORINO

東京藝術大学卒業、ウィーン国立音楽大学修士課程首席修了。第 27 回ヨハネス・ブラームス国際コンクール声楽部門にて日本人初優勝。第 87 回日本音楽コンクール声楽部門優勝。2019 年ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団夏のアカデミー「偽の女庭師」タイトルロールでオーストリアツアーを成功させ、2021 年エットリンゲン音楽祭「こうもり」アデーレ、2022 年バーデン市立劇場「椿姫」ヴィオレッタの他、近年は現代作品においての活躍もめざましく、2023 年ジュネーブ大劇場「Electric Dreams」、ノイエ・オペラウィーン「キャプテンネモの図書館」2021/2022 年 ルツェルン劇場「Zolle」、「ペレラ〜煙の男」等、数多くの現代オペラに出演。国内では出光音楽賞を受賞の他、NHK 交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団等の共演をはじめ、NHK ニューイヤーオペラコンサート、題名のない音楽会、プロ野球オールスター戦開幕式にて国歌独唱を務めるなどメディアにも多く出演している。ローム ミュージック ファンデーション奨学生、文化庁派遣海外研修員。マルセンスポーツ・文化賞「文化大賞」、五島記念文化賞オペラ新人賞、岡山県芸術文化賞グランプリ、山陽新聞奨励賞、エネルギー文化・スポーツ財団 エネルギー賞受賞。岡山市出身。www.misakimorino.com



文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)） | 独立行政法人日本芸術文化振興会
藤原歌劇団公演（共催：新国立劇場・東京二期会）
日本オペラ振興会総監督 郡 愛子
公演監督 斉田正子
G.ヴェルディ作曲「ラ・トラヴィアータ ～椿姫～」
Giuseppe Verdi / La Traviata
オペラ全3幕 (字幕付き原語（イタリア語）上演)

【公演日程】2025年9月5日(金)・6日(土)・7日(日) 14:00 開演

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S席¥22,000 A席¥19,000 B席¥16,000 C席¥12,000 D席¥8,000 E席¥4,000 (税込)

日本オペラ振興会総監督	郡 愛子
General Artistic Director	Aiko KORI
公演監督	斉田正子
Production Artistic Director	Masako SAIDA
指揮	阿部加奈子
Conductor	Kanako ABE
演出	栗國 淳
Stage Director	Jun AGUNI

ヴィオレッタ	迫田美帆	田中絵里加	森野美咲
Violetta Valéry	Miho SAKODA	Erika TANAKA	Misaki MORINO
アルフレード	笛田博昭	松原 陸	
Alfredo Germont	Hiroaki FUEDA	Riku MATSUBARA	
ジェルモン	須藤慎吾	押川浩士	
Giorgio Germont	Shingo SUDO	Hiroshi OSHIKAWA	
フローラ	古澤真紀子	北菌彩佳	
Flora Bervoix	Makiko FURUSAWA	Saika KITAZONO	
ガストン	堀越俊成	工藤翔陽	
Gastone	Toshinari HORIKOSHI	Shoyo KUDO	
ドゥフォーール	江原啓之	アルトゥーロ・エスピノーサ	
Barone Douphol	Hiroyuki EHARA	Arturo ESPINOSA	
ドビニー	坂本伸司	大塚雄太	
Marchese d'Obigny	Shinji SAKAMOTO	Yuta OTSUKA	
グランヴィル	豊嶋祐壹	相沢 創	
Dottor Grenvil	Yuichi TOYOSHIMA	Hajime AIZAWA	
アンニーナ	石井和佳奈	萩原紫以佳	
Annina	Wakana ISHII	Shiika HAGIWARA	
ジュゼッペ	濱田 翔	原 優一	
Giuseppe	Sho HAMADA	Yuichi HARA	

使者	江原 実（全日）
Commissionario	Minoru EBARA
召使	岡山 肇（全日）
Domestico	Hajime OKAYAMA
合唱	藤原歌劇団合唱部 Fujiwara Opera Chorus Group 新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus 二期会合唱団 Nikikai Opera Theatre
ダンサー	水 友香里、浅井敬行 Yukari MIZU / Takayuki ASAI
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

合唱指揮	安部克彦
Chorus Master	Katsuhiko ABE
美術&衣裳	アレッサンドロ・チャンマルーギ
Scenery Designer & Costume Designer	Alessandro Ciammarughi
照明	原中治美
Lighting Designer	Harumi HARANAKA
振付	伊藤範子
Choreographer	Noriko ITO
舞台監督	菅原多敢弘
Stage Manager	Takahiro SUGAHARA
副指揮	大浦智弘、矢野雄太
Assistant Conductor	Tomohiro OURA / Yuta YANO
演出助手	上原真希、澤田康子
Assistant Stage Director	Maki UEHARA / Yasuko SAWADA

公演特設サイト https://www.jof.or.jp/performance/2509-la_traviata

【お問い合わせ・予約】

日本オペラ振興会チケットセンター 044-819-5550（平日 10:00～18:00）

【チケット販売所】

- ・チケットぴあ <https://t.pia.jp/>（Pコード：285-859）
 - ・イープラス <https://eplus.jp>
 - ・ローソンチケット <https://l-tike.com/>（Lコード：33145）
 - ・teket <https://teket.jp/9911/37375>
 - ・新国立劇場ボックスオフィス 11:00～18:00（窓口販売のみ、現金払いのみ）
- ※チケット代金のほかに手数料がかかります。